

# 研究会活動報告

平成 26 年度

(平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日)

研究会名称	ICT 活用研究会
役員	会長：木下昭一（元聖徳大学） 副会長：○坂井岳志（世田谷区立八幡小学校）
趣旨	現代社会において、自らの思考を深め、自らの思いを広め、自らの行動を積極的に展開していくためには、「情報」を的確に活用していくことが必要となる。児童や教員にとっても学校での学びを豊かに深める入口として、情報を活用していくことは必然的な流れであると考えます。また、私たち自身も、自らの情報を発信し他の会員との交流を図ることで、「研究内容」を鍛え上げていくことが可能となると考える。
活動報告	<p>ICT 研究会としては、学会の時だけに限らず、日常的な情報交換を行うことで、今後の日本の教育に対し、より適格な方向を見だしていきたいと考えている。そのための具体的方法として以下の内容を採用し、実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度の定例会を行い、各地の先生方と情報教育関係の研究を行った。（年 12 回）</li> <li>・Facebook グループ、また Facebook ページを作成し、日常的な研修、交流を行った。</li> <li>・Google のハンガアウト（ビデオチャット）を活用して、定例会にそれぞれの地域から参加していただいた。</li> <li>・今年度は、学習過程研究会との共催で、プログラミング関係の内容を中心として、先生方の研修会を実施した。（2014 年 12 月 27 日（土）テーマ：「小学校教育でのプログラミング研修会」）</li> <li>・日本教育情報学会 ICT 活用研究会の全体研究会も行った。</li> </ul> <p>東京都世田谷区立八幡小学校にて実施され、4 件の研究発表が行われた。なおこの結果は冊子として配布される予定。（2014 年 12 月 27 日（土）テーマ：「時間、空間を超えて研究会を深めるためにクラウドをどう活用するのか」～ハンガアウトと Youtube、SNS を活かして～）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の研究会との合同研修会を行った。（2015 年 3 月 1 6 日（月）テーマ：オンライン授業支援システム Moodle の活用と授業デザイン</li> </ul>

研究会名称	教育資料研究会
役員	会長：久世均（岐阜女子大学） 副会長：○齋藤陽子（岐阜女子大学）
趣旨	学校現場が抱える課題は、益々複雑化し混迷の度合いを増しています。教育問題は今や、教育制度の範疇を超えて大きな社会問題として認識されるようになりました。そこで、本研究会では、教材開発、教材資料の活用上の問題点（例：著作権など含む）など学校教育を取り巻くさまざまな課題について検討すると共に、教師の自己研修と教科書の存在価値、授業研究の在り方について情報交換を行います。
活動報告	<p>1. 第 1 4 回 教育資料研究会の開催</p> <p>～ ICT を活用した教育・学習支援の展開と課題 ～</p> <p>日時：平成 26 年 11 月 24 日 13：30～17：00</p>

<p>場 所：岐阜女子大学文化情報研究センター 4階多目的室</p> <p>参加者：60名参加</p> <p>2. 教育資料研究会報告書 教情研究 EI15-1 (2015-02) 発行 平成27年2月11日 P163 23件の論文集録</p> <p>3. 第15回 教育資料研究会の開催</p> <p>日時：平成27年6月27日 13:30~17:00</p> <p>場 所：岐阜女子大学文化情報研究センター 4階多目的室</p>
--

研究会名称	教職開発研究会
役員	会長：○高田英一（九州大学） 副会長：武田正則（国立仙台高等専門学校）
趣旨	ICT社会における学校教育について、教育課程、教育内容、教育方法・技術、教育評価の観点から教育実践を通じて検証し考察する活動を行います。また、重要な課題である教員の資質向上に向けたFDの取り組み（特に、アクティブラーニングなど）や、ケータイ、インターネットなどの情報化の影について実証研究を進めていきます。
活動報告	<p>（研究会の実施）</p> <p>教職開発研究会では、IRとアクティブラーニングをテーマに2回の研究会を開催した。概要は以下のとおり。</p> <p>1. 第1回教職開発研究会</p> <p>(1) テーマ 大学におけるIRの取組とIRに関する教職開発（FD・SD）のあり方</p> <p>(2) 日時 平成27年3月10日（火）13:00-15:00</p> <p>(3) 開催場所 九州大学箱崎キャンパス 21世紀交流プラザ多目的ホール</p> <p>(4) 参加者数 34名（国立大14名、私立大20名）</p> <p>(5) 概要 IRを実践している国立大学の3名の方に講演をいただき、その後、パネルディスカッション、会場との意見交換を行った。3名の講師の方々は、いずれも大学の現場においてIRを担当している方々であり、いただいたご講演から、実践を踏まえた多くの知見と示唆を頂いた。特に、IRのニーズは各大学の状況によって異なり、目的設定の明確化が重要であるという3名の講師に共通する指摘を踏まえると、今後のIR人材の育成では、分野別・習熟度別・職階別等のニーズに合わせた人材育成が必要であろう。ただ、これら多様なIR人材育成は、単独の大学等での実施は困難である。現在のIR人材育成の取組の支援や、大学間連携等のネットワーク形成、各大学におけるIRの取組への支援等のIR人材の育成のあり方について引き続き研究を進める必要がある。</p> <p>2. 第2回教職開発研究会</p> <p>(1) テーマ アクティブラーニング推進のための教職開発のあり方</p> <p>(2) 日時 平成27年5月23日（土）13:30~16:00</p> <p>(3) 開催場所 国立高専機構 仙台高専 広瀬キャンパス</p>

	<p>(4) 参加者数 65名(会場40名, ネット参加25名)</p> <p>(5) 概要 ALを実践している高専および大学のAL担当者3名を講師に招き、現場の知見を踏まえた講演をいただいた。3名の講師の方々は、いずれも、高専および大学の現場においてALを担当および関係している方々であり、いただいた講演から、実践を踏まえた多くの知見と示唆を頂いた。特に、AL推進のための教職開発の在り方、何をすればALになるのかについて、教育現場からの意見を伺った。その中で、「アクティブティーチング(教える)からアクティブラーニング(学ぶ)への転換」の意識変革が重要であり、高等教育といえども、すべての個々の学生を理解し、自主的・能動的に行動する学生を育てることが大切であるという意見にまとまった研究会であった。</p>
--	---

研究会名称	著作権等研究会
役員	会長：○坂井知志(常磐大学) 副会長：藤川義人(弁護士法人淀屋橋・山上合同)
趣旨	デジタルアーカイブ、教材作成に関わる教育活動、ICT活用支援など様々な教育活動に関係する著作権、肖像権、個人情報について検討し、教育関係者が遵守すべきガイドラインを作成します。本研究会は、各研究会と協力しつつ進めますが、特にICT活用支援研究会と連携し活動を進めます。研究会活動はメーリングリストを中心に行います。
活動報告	<p>(研究会の実施)</p> <p>1 第1回テーマ「デジタルアーカイブと空撮」平成27年3月20日 23名</p> <p>2 第2回テーマ「社会教育の実践とドローン」平成27年4月29日 32名</p> <p>3 第3回テーマ「ドローンに関する制度的課題」平成27年5月27日 20名</p> <p>(研究論文集の発行)</p> <p>「ドローンの技術的・制度的課題」(発刊予定7月)</p>

研究会名称	デジタルアーカイブ研究会
役員	会長：生田孝至(岐阜女子大学) 副会長：○井上透(岐阜女子大学)
趣旨	博物館、図書館、文書館、企業等において所蔵資料のデジタルアーカイブ化による保存と流通への取り組みが全国的に進められています。また、学校教育にあっても既存のデジタルアーカイブを活用するだけでなく、教材デジタルアーカイブを作成する試みが進展しています。さらに、企業や官公庁の知識基盤としてのデジタルアーカイブ化も始まりました。本研究会は、理論研究だけでなく、教育現場をはじめとする博物館、企業などさまざまな場面でのデジタルアーカイブに伴う課題解決に実践的に取り組みます。
活動報告	<p>1 デジタルアーカイブ研究会</p> <p>①11月24日研究会を開催し、7名が発表し、参加者は11名であった。</p> <p>発表は、民話のデジタルアーカイブにおける管理・流通の研究、遠州灘沿岸における</p>

	<p>震災と津波被害の歴史、竹箴復元製作のデジタル記録保存と伝承の可能性を探る、舞姫とサイゴン、3Dプリンタを活用した教材作成、デジタルアーカイブ教育カリキュラムの見直しに関する考察、博物館 SNS の現状と課題であり、タイトルに見られるようデジタルアーカイブ化の課題が多彩な視点より検討された。</p> <p>②2月10日研究会第を開催し13名が発表し、参加者は44名であった。</p> <p>発表は、デジタルアーカイブを利用したハイブリッドレーディングに関わる考察、沖縄修学旅行おうちの利用結果と今後の可能性、「デジタルアーカイブ 飛騨おうち」の制作と活用について、歴史資料をデジタル化し公開することに伴うアーキビストの役割、震災デジタルアーカイブの取り組みと課題、デジタルアーカイブ利用と教職員の著作権・個人情報保護に関する意識、民具資料のデジタルアーカイブ化、職人の技術伝承に資するデジタルアーカイブ開発と課題、博物館活動のデジタルアーカイブ化に向けて、博物館 ICT の現状、デジタルアーカイブを成功させるための仕様書の作成について、発問・発言と学習プリントの手引き、であり大学関係者だけでなく、高等学校、博物館、企業関係者から実践研究的な取組について発表があった。</p> <p>2 デジタルアーカイブ研修誌の発行</p> <p>デジタルアーカイブ研究誌 Vol2.No1 2014.12.1 を発行し、8論文を収録した。</p> <p>3 デジタルアーカイブ in 岐阜の開催</p> <p>2月11日、学会の後援を得て、岐阜女子大学と連携してデジタルアーカイブ in 岐阜を開催した。「デジタルアーカイブの効果的活用」をテーマに基調講演、シンポジウムを行い、ICT,図書館,博物館,デジタルアーカイブの4セッションに約230人が参加した。</p>
--	---

研究会名称	国際交流研究会
役員	会長：○小川 勤（山口大学） 副会長：加納 寛子（山形大学）
趣旨	<p>日本のどの大学でも「高等教育のグローバル化」が叫ばれ、様々な教育実践が行われている。さらにこのことを促進するために大学によっては「国際」という名を冠した新学部を設置が加速化している。一方でこれらの動きに呼応するかのように大学教員の研究活動の国際的展開が求められている。そこで本研究会では学会に新しく設置された「研究会委員会」の下に新たに「国際交流研究会」を設置し、本学会の研究委員会とともに、海外の研究者との学術交流をさらに推進していく上での課題や海外における現地調査を巡る課題やその解決等について本学会の研究者だけでなく学会外の研究者も招聘して、今後の学術交流の在り方について検討するとともに、本学会と海外の学会との学術交流を今後いかに促進していくかについて情報交換を行う。研究した成果の発表等については、年会のテーマ別セッションや研究発表の場で、随時公表していく予定です。</p>
活動報告	平成27年3月21日（土・祭）午後1時～4時30分まで、東京港区のキャンパスイノ

ベーションセンターにて、第1回の研究会を開催した。当日は研究会のメンバー3名が基調講演および研究発表を行った。参加者は10名と少なかったが、国際交流に対して非常に問題意識が高い方が多く参加されていた関係で、最後の総合討論では議論がかなり盛り上がった。また、8月29日（土）開催の年会のテーマ別セッションでは、海外の研究者（モンゴル・中国：非会員）2名、研究会メンバー3名を含む合計6名の研究者から国際交流に関する研究発表があった。本学会と中国山東省の国立曲阜師範大学翻訳学院 eラーニング研究会および国立山東大学山東計算機学会（会員数約2,000名）との間で、教育研究に関する学術交流を深める協定（MOU）が締結されたことを受け、今後は学術交流を支援する活動を実施していきたい。また、平成27年度は年2回研究会を開催し、海外からの研究者を含めた学術交流を行っていきたい。

## 今後の研究会活動への提言

日本教育情報学会研究会委員会  
会長 坂井知志（常磐大学）

### 1 研究会活動費の補助継続（説明）

会長・運営委員会の意向

### 2 地域別研究会の振興（審議）

地域会員の発表機会の確保のため、各研究会のテーマ以外の活動（発表等）は可能か。

### 3 横断的課題の共有（提案）

研究会の協力関係を構築するため、三つの横断的なテーマを設定する。

（1）教員・研究者の交流やボローニャプロセス等教育の国際化に対応した情報の共有を促進する。

（2）権利処理がなされていないデータは教材として共有できない。研究会・学会として新たなマーク方式を1年間検討し、他の学会や教育組織に提案する。

（3）デジタルアーカイブはメタデータ等デジタルデータの共有を促すフォーマット等に関する知見を研究している。その方法等を共有する。

### 4 遠隔ソフトの導入により、全国の会員に研究会参加の促進を図る。（提案）

スカイプやハングアウト等の導入により地域の活動を全国化する取り組みが一部の研究会で取り組まれている。その方法を準備ができた研究会から順次進める。